

◆授業のポイント◆

- ・ 深い学びを実現できる授業づくりの工夫
- ・ 対話的な学びを通して、考えに広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
- ・ 見通しと振り返りの充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

社会科学学習指導案（歴史的分野）

学 級 3年5組（男子21名女子15名計36名）

場 所 3年5組 教室（3年校舎4階）

授業者 教 諭 脇 之 菌 和 美

1 単 元 戦後日本の発展と国際社会（大単元 現代の日本と世界）

2 単元について

元号が新しく令和に変わり、来年は東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催され、私たちが生きる時代が大きく変わろうとしている。政治や経済、国際関係が大きく変わり、これからの社会がどのようになっていくのか見え辛い時代背景は、戦後の日本と通じるものがあると考えられる。本単元では、第二次世界大戦後から20世紀末ごろまでの歴史を扱い、我が国の現代の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。この時期の我が国は、第二次世界大戦後の混乱の中から民主的な文化国家を目指して再建と独立の道を歩み、冷戦など世界の動きとの関わりの中で、経済や科学技術の急速な発展を成し遂げ、国際社会における役割も大きくなった。

本学級の生徒は、全般的に社会科の学習に意欲的に取り組んでいる。また、元号が変わったことや東京オリンピック・パラリンピックが開催されることについて、関心を抱いている生徒も多く、生徒の中でも話題にのぼることが多い。しかし、歴史の学習にあたっては、歴史の流れを大観し、現代社会と関連付けて考えることを苦手としている生徒も多い。歴史の流れを大観することを通して、社会の変化に適応したり、その変化に敏感に気付いたりすることができる資質・能力を高めしていく必要性を感じる。

指導に当たっては、「戦後の日本は何が変わったのだろうか。」という単元を通じた学習課題を設定し、国内政治・国際社会・経済という三つの視点を関連させて、その課題について多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現できるようにする。そのためにも、その三つの視点を、生徒自身に気付かせ、学習に対する見通しをもたせていきたい。また、OLBシートを活用して、自分の考えの変化についても振り返らせていきたい。本単元で、戦後の日本の変化の様子を多面的・多角的に考察し表現する活動を通して、これからの現代社会の課題やよりよい社会をつくるために必要なことについて気付くことができるように、メタ認知（レベル3）に関する資質・能力を高めさせていきたい。

3 単元の目標

- (1) 課題を追究したり解決したりする活動を通して、日本の民主化と冷戦下の国際社会や、日本の経済の発展についての知識を身に付けることができる。 〈知識及び技能〉
- (2) 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、社会の変化の様子について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 〈思考力・判断力・表現力等〉
- (3) 戦後の日本の歩みについて、歴史の大きな流れの中で、現代の課題と関連付けて考え続ける姿勢をもつことの大切さに気付くことができるようにする。 〈学びに向かう力・人間性等〉

4 単元の「知識の構造図」

戦後の日本は、戦後の混乱の中で、国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に、民主化に向けて、日本国憲法を制定したり、農地改革を行ったりして、現代の日本の骨組みが形成されていった。(国内政治の視点) また、国際連合が発足し、冷戦と呼ばれる米ソ両陣営が対立する中で、我が国が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰していった。(国際社会の視点) そして、我が国の高度経済成長や科学技術の発展に伴い、国民生活が向上し、それらを背景とする世界有数の経済大国へと成長していった。(経済の視点)

	国内政治の視点	国際社会からの視点		経済の視点	複合視点			
概念的	戦争により、国民生活は壊滅的な打撃を受け、戦後の日本は連合国軍から占領された。	日本は民主化にむけて、日本国憲法を制定し、財閥解体や農地改革など様々な民主化政策を行った。	資本主義陣営と共産主義陣営が対立する冷戦と呼ばれる状況になっていった。	冷戦により日本の占領政策の転換が図られ、サンフランシスコ平和条約の締結により国際社会に復帰した。	冷戦下の国際的緊張は次第に緩和されていき、沖縄も日本に復帰するなど、日本の外交関係にも広がりが見られるようになっていった。	日本経済が高度経済成長をとげ国民生活が変化した一方、公害問題など社会に様々なひずみが生じていった。	日本社会の変化により、マスメディアが発達していった。	新しい政治の仕組みとして民主化政策が進められ、新しい憲法が制定される等、日本の骨組みが形成されていった。また米ソ両陣営が対立する中で、我が国が独立を回復し、国際社会に復帰していった。そして、高度経済成長に伴い、国民生活が変化した。世界有数の経済大国へと成長を遂げた。
具体的知識								
用語	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土 ・マッカーサー ・GHQ ・極東国際軍事裁判 	<ul style="list-style-type: none"> ・財閥解体 ・農地改革 ・日本国憲法 ・教育基本法 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮戦争 ・南北問題 ・国際連合 ・冷戦 ・中華人民共和国 	<ul style="list-style-type: none"> ・特需景気 ・自衛隊 ・サンフランシスコ平和条約 ・日米安全保障条約 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア・アフリカ会議 ・ベトナム戦争 ・非核三原則 ・日ソ共同宣言 ・日韓基本条約 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長 ・石油危機 ・東京オリンピック ・パライピック ・公害問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ放送 ・マスメディア 	

単 元 を 習 通 課 し た 題

5 単元の指導計画（全8時間）

時	主題	学習目標	育成する能力				
			知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等		主体的に学習に取り組む態度	
				情報活用力	論理的思考力	協働する力	課題発見力
単元の学習内容への関心を高め、単元を通じた学習課題を設定する段階							
1	占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> 「戦後の日本は何が変わったのだろうか。」という学習課題について、戦後の日本は何が変わったのか予想する。 	○			○	○
日本が民主化にむけて再建に取り組んだことをつかむ段階（国内政治の視点）							
		<ul style="list-style-type: none"> 戦後の占領政策と日本が抱えた問題について理解する。 					
2	民主化と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> 憲法や民法の比較を通して戦前からの変化について考える。 		○			
戦後の国際社会やアジアの動きを理解し、アジアの中の日本の様子をつかむ段階（国際社会からの視点）							
3	冷戦の開始と植民地の解放	<ul style="list-style-type: none"> 国際連合の誕生と東西冷戦について理解し、戦後のアジアの中の日本の立場について考える。 		○			○
4	独立の回復と55年体制	<ul style="list-style-type: none"> 占領政策の転換やサンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約の締結から日本の歩みについて理解する。 		○		○	
5	緊張緩和と日本外交	<ul style="list-style-type: none"> 世界の緊張緩和や沖縄の日本復帰の様子について理解する。 		○			
日本が高度経済成長をとげ、国民生活が変化した様子をつかむ段階（経済の視点）							
6	日本の高度経済成長	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長が国民の生活に大きな変化をもたらしたことに気付く。 	○		○	○	○
7	マスメディアと現代の文化	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアの利点と欠点について考え、マスメディアの中心が社会の発展とともに変化したことを理解する。 単元を通じた学習課題についての考えを記入する。 	○				○
単元を通じた学習課題を解決し、多面的・多角的に考える段階							
8	戦後日本の発展と国際社会	<ul style="list-style-type: none"> 戦後の日本は何が変わったのか、三つの視点から改めて考え、自分の言葉で説明する。 		○	○	○	○

6 単元におけるルーブリック

レベル	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
	概要「②情報活用力」と主に関連	概要「③論理的思考力」「④協働する力」と主に関連	概要「①課題発見力」「⑤メタ認知」と主に関連
4	戦後の日本の歩みについて, 国内政治や国際社会, 国内経済に関する複数の資料を活用して, 現代の課題と関連付けながら知識を身に付けることができる。	戦後の日本の歩みや現代社会の課題について, 他者の意見を整理し, 多面的・多角的に説明することができる。	戦後の日本の歩みについて学ぶ中で, 現代の国内外の課題について自ら発見し, 既習の学習を生かしてよりよい解決を図ることができる。
3	戦後の日本の歩みについて, 国内政治や国際社会, 国内経済に関する資料の中から, 現代社会の課題と関連させながら, 必要な資料を関連させて取り出すことができる。	戦後の日本の歩みや現代社会の課題について, 他者の意見を整理し, 多面的・多角的に考察することができる。	戦後の日本の特色を三つの視点から考え, その視点を生かして, 現代社会の課題に気付くことができる。
2	戦後の日本の歩みについて, その特色や現代社会の課題を知るための資料を比較して, 複数収集することができる。	戦後の日本の歩みの特色や現代社会の課題に関する自らの考えについて根拠を基に説明し, 互いの考えの共通点や相違点を見出すことができる。	戦後の日本の歩みの特色や現代社会の課題について見通しをもち, 自らの学習の過程を振り返ることができる。
1	戦後の日本の歩みの特色や現代社会の課題を知るためにはどのような資料が必要か考えることができる。	戦後の日本の歩みの特色や現代社会の課題に関する自分の考えを, 他者に伝えることができる。	学習課題を的確に把握し, できたことや分かったことを自分の言葉でまとめることができる。

7 本時の実際 (8/8)

(1) 題材 戦後日本の発展と国際社会

(2) 目標 戦後の日本は何が変わったのかを考えることで, 戦後の日本の特色を多面的・多角的に考察することができる。
 戦後の日本の特色を三つの視点から考え, その視点を生かして, 現代社会の課題に気付くことができる。
 (思考力・判断力・表現力)
 (学びに向かう力・人間性等)

(3) 授業設計上の工夫

ア 深い学びを実現できる授業づくり・・・**研究の視点1**

学習内容の構造図をもとに「深い理解」に至った生徒の姿を具体化し, 思考に広がりや深まりが生まれやすい単元を通した学習課題を設定した。戦後の日本は何が新しくなったのかという学習課題に対して, 国内政治・国際社会・経済の視点を関連させ, 前時までにまとめた学習課題に対する自分の考えを, 広げ, 深めさせていきたい。

イ 対話的な学びを通して, 考えに広がりや深まりが生まれる手立ての工夫・・・**研究の視点2**

意外性があり, 実生活と関連して考える視点に沿った東京オリンピックに関する資料を提示し, 改めて「戦後の日本は何が変わったのか」について個や班で考えさせる。班の中で意見交換したあと, もう一度個で考えさせる。その際, 予想される生徒の姿として, 一つの視点のみで考え, 複合的な視点で考えることが難しいことが予想されるので, 「学習課題に迫る切り返しの発問」の視点イより「一番みんなが使っている言葉は何?」という発問で, 視点と視点を関連付けることに導いていきたい。また, キーワードから考えが広がっていない場合, 「その言葉はどのように結びついているの?」という発問で, 生徒の思考を広げさせたい。

ウ 見通しと振り返りの充実を図り, 主体的な学びを実現する指導の工夫・・・**研究の視点3**

OLBシートを活用して, 「戦後の日本は何が新しくなったのか」という学習課題に対する自分の考えがどのように変化したのか, 何をきっかけに考えが変化したのかそのプロセスを振り返る。そして, 三つの視点を関連させて考えることが, 戦後の日本の特色を捉えることのみならず, 現代社会の課題を捉えることにもつながることに気付かせたい。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

課題発見力 レベル3	
【生徒の姿】 ・ 戦後の日本の姿を多面的・多角的に考察することで、現代社会の課題についてもとらえることができる。	【手立て】 ・ 戦前・戦後・未来とつながる資料を用意し、戦後の課題から未来の課題につなげて考えることができるようにする。
メタ認知 レベル3	
【生徒の姿】 ・ 本単元で獲得した視点を、現代社会の課題やこれから自分たちがすべきことについて考えるときに活用することができる。	【手立て】 ・ OLBシートを活用して、戦後の課題も現代社会の課題も考える視点は同じだと気付くことができるようにする。

(5) 授業の流れ (8/8)

過程	時間	形態	主な学習内容	指導上の留意点
導入	5分	一斉	1 資料を見る。 2 単元を通した学習課題を確認する。 戦後の日本は何が変わったのだろうか。	・ 意外性があり、視点に沿った資料を提示して考えを揺さぶる。 (東京オリンピックの資料)
展開	20分	ペア	3 戦後の様子について、三つの視点から考えたことを確認する。	・ OLBシートに前時までに記入した内容をペアで確認し、全体で共有できるようにする。 ・ 視点ごとに線を引くことで、学習課題を考える上での視点を確認できるようにする。また班で互いに意見交換し、考えを広げようにする。 「学習課題に迫る切り返しの発問」の視点イ [思考の方向転換や焦点化を図る発問] どの視点で考えた？ 一番使っている言葉は何？ どのように結びついているの？ どう関連しているの？
	10分	個別	4 前時にまとめた、単元を通した学習課題に対する自分の考えをお互いに確認し合い、班で意見交換する。 気付き ・ 学習課題を考える上で、国内政治・国際社会・経済の三つの視点で考えていけばいいんだ。 5 単元を通した学習課題に対する自分の考えやその変化を記入する。 深い理解に至った生徒の姿	
			GHQ の占領政策が進められる中、新しい憲法が制定され、農地改革や財閥解体等を通して経済改革が行われる等、新しい政治の仕組みとして民主化政策が進められ、日本の骨組みが形成されていった。また、米ソ両陣営が対立する中で、我が国が独立を回復し、国際社会に復帰していった。そして、その後の高度経済成長に伴い、国民生活が変化し、世界有数の経済大国へと成長を遂げた。その象徴とも言えるのが、東京オリンピック・パラリンピックの開催である。	
			納得 ・ 現代社会についても、国内政治・国際社会・経済の三つの視点で考えていけばいいんだ。	

終 末	15分 個・ペア	6 戦後の日本の歩みを踏まえ, society5.0の映像を見て, これからの社会がどのような社会になっていくのか予想し, 現代社会の日本の課題が何なのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> society5.0の映像を提示し, これからの社会がどのような社会になっていくのか予想させるようにする。 <p>「学習課題に迫る切り返しの発問」の視点ウ [学習意欲をつかむ発問] それはどの視点から考えたの? 自分だったらどうする?</p>
		7 よりよい社会をつくるために, 私たちは何をすべきなのか考える。	

意志

- 三つの視点を関連づけて考えることは, 現代社会の課題に気付いたり, よりよい社会づくりについて提案することにも役立ちそうだ。

⑤ メタ認知 レベル3
学んだことを基にして, 次の疑問をもつことができる。

<板書計画>

[戦後日本の発展と国際社会]

戦後の日本は何が変わったのだろうか。

	国内政治	国際社会	経 済	
1940年の 五輪資料	天皇は神である 軍国主義的な教育 大日本帝国憲法 天皇主権 財閥の成長 25歳以上の男子に選挙権	国際連盟 連合国 植民地 アメリカと対戦 韓国併合 満州事変・日中戦争	財閥の成長 失業者があふれ物価上昇	2020年の五輪資料
1964年の 五輪資料	「人間宣言」 民主主義的教育 日本国憲法 国民主権 財閥解体 20歳以上の男女に選挙権 東京オリンピック	国際連合 米ソの対立(冷戦) 独立国の誕生 アジア・アフリカ会議 日米安全保障条約 日韓基本条約 日中共同声明 日中平和友好条約 石油危機 東京オリンピック	財閥解体 特需景気 高度経済成長 公害問題の発生 石油危機 東京オリンピック 三種の神器 東海道新幹線 省エネルギー化	現代社会の課題 これからの時代に私たちが できること

【OLBシート】

戦後日本の発展と国際社会

3年()組()番 名前()

〈単元を通した学習課題〉

戦後の日本は何が変わったのだろうか。

〈私の予想〉

〈学習課題に関して、気づいたこと、考えたこと〉

視点	国内政治	国際社会	経済
前			
後			

変わった理由

考えの変化

〈単元を通した学習課題に対する私の考え〉

〈現代社会の課題は何だろう。また、私たちが今すべきことは何だろう〉

考える視点は？

